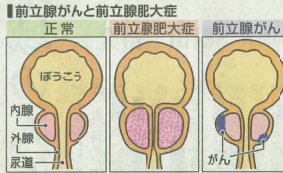




岡山済生会総合病院市民公開講座「ぜんぜん難しくない前立腺のお話」

排尿の悩み 症状知って対処を

岡山済生会総合病院（岡山市北区国体町）は5日、高齢男性に多い排尿の悩みをテーマにした市民公開講座を院内で開いた。タイトルは「ぜんぜん難しくない前立腺のお話」。男性特有の臓器・前立腺のガンと肥大症の治療、症状改善につながる生活習慣の見直しなどについて、看護師、理学療法士、医師が講演した。要旨を紹介する。



前立腺肥大症は内腺に良性の腫瘍が発生し尿道やほうこうを圧迫する。前立腺がんは外腺から悪性の腫瘍が発生する。

泌尿器科副院長 宇埜 誠氏

「ぜんぜん知らない 前立腺ガンと肥大のちがい」

前立腺はほうこうの真下であり、尿道を取り囲むように位置する直径3センチほどの臓器。前立腺液を分泌し精液の一部をつくっている。果物のシカンに例え、前立腺がんは辺縁領域という皮の部分にできやすい。前立腺肥大症はミカンの実となる腺領域で発症する。こちらは中年の誰かがかかっている割合で、有病率は60代で6割、70代で7割に達している。日本では、前立腺がんの男性の罹患率は1位だが、死亡率は7位。進行が遅く、早期発見できれば5年生存率はほぼ100%に近い。遺伝的要因が発症に深く関係しており、家族に前立腺がんになった人がいれば罹患リスクは2.5倍ほどに高まる。その他、高脂質の食事、喫煙、肥満などがリスク要因である。遺伝性の乳がんや卵巣がんの家族歴がある人もリスクが2倍ほど高くなる。

前立腺肥大症は、尿道を圧迫し、排尿の妨げとなる。早期発見すれば、薬物療法で済む。PαAという血液検査が有効だ。PαAは前立腺液から分泌されるシカンで、前立腺組織が破壊されると血液中に含まれるようになる。この検査でがんが疑われるようになると、指で前立腺を触ったり、超音波やMRIなどをし、さらに必要に応じて組織を採取する生検をする。

治療初期は根治を目指す。手術あるいは放射線治療、ホルモン剤を併用することもある。手術は当院では全尿道切除のロボットで行っている。手術時間は4時間ほど。入院は平均で2週間。最速で8日間である。1回で治療が完了することがメリットだが、術後の失禁が長期に及ぶことがある。一方、放射線は手術よりも体の負担が比較的小さい。仕事をしながら外来で治療できるのが利点だが、治療



理学療法士 藤沢 佳苗氏

骨盤底筋体操



効果を上げるポイント

- おなかや太ももに力を入れない
- 息を吐きながら行う
- 収縮が分らないときは尾骨を触って確認する

「ぜんぜんできる 失敗しないトイレ動作」

不安や恐怖感が生まれ、トイレに関する悩みがあったり、トイレ失敗したりすると、自己肯定感や自尊心が低下する。再び失敗するかもしれないという不安や恐怖感が生まれ、トイレに関する悩みがあったり、トイレ失敗したりすると、自己肯定感や自尊心が低下する。再び失敗するかもしれないという不安や恐怖感が生まれ、トイレに関する悩みがあったり、トイレ失敗したりすると、自己肯定感や自尊心が低下する。

「ぜんぜん知らない 前立腺ガンと肥大のちがい」

前立腺肥大症は、尿道を圧迫し、排尿の妨げとなる。早期発見すれば、薬物療法で済む。PαAという血液検査が有効だ。PαAは前立腺液から分泌されるシカンで、前立腺組織が破壊されると血液中に含まれるようになる。この検査でがんが疑われるようになると、指で前立腺を触ったり、超音波やMRIなどをし、さらに必要に応じて組織を採取する生検をする。

「ぜんぜん知らない 前立腺ガンと肥大のちがい」

前立腺肥大症は、尿道を圧迫し、排尿の妨げとなる。早期発見すれば、薬物療法で済む。PαAという血液検査が有効だ。PαAは前立腺液から分泌されるシカンで、前立腺組織が破壊されると血液中に含まれるようになる。この検査でがんが疑われるようになると、指で前立腺を触ったり、超音波やMRIなどをし、さらに必要に応じて組織を採取する生検をする。



皮膚・排泄ケア認定看護師 上田麻由香氏

「ぜんぜん大丈夫 トイレの悩みと前立腺」

トイレが近くなったワタレに間に合うように尿が漏れた。尿がなかなか出ない。尿の勢が強い。尿が出終わるまでに時間がかかる。△出した切った感じがしない。夜中に何度もトイレに起き、眠りが浅い。こんな症状に一つも当てはまる方が結構いるのではないかと、上田氏から話があった。

- どんな時に病院に行けばいいの？
- トイレが近くで外出が心配
 - おしっこが出にくく時間がかかる
 - だんだん症状が強くなっている
 - トイレの悩みで生活が不便になっている
 - おしっこが全く出なくなった

「ぜんぜん知らない 前立腺ガンと肥大のちがい」

前立腺肥大症は、尿道を圧迫し、排尿の妨げとなる。早期発見すれば、薬物療法で済む。PαAという血液検査が有効だ。PαAは前立腺液から分泌されるシカンで、前立腺組織が破壊されると血液中に含まれるようになる。この検査でがんが疑われるようになると、指で前立腺を触ったり、超音波やMRIなどをし、さらに必要に応じて組織を採取する生検をする。

「ぜんぜん知らない 前立腺ガンと肥大のちがい」

前立腺肥大症は、尿道を圧迫し、排尿の妨げとなる。早期発見すれば、薬物療法で済む。PαAという血液検査が有効だ。PαAは前立腺液から分泌されるシカンで、前立腺組織が破壊されると血液中に含まれるようになる。この検査でがんが疑われるようになると、指で前立腺を触ったり、超音波やMRIなどをし、さらに必要に応じて組織を採取する生検をする。

次回は10月5日付です。

過去のメディカ掲載記事をはじめ、岡山県内主要病院の情報、医療・健康ニュースは山陽新聞社のホームページ「岡山の医療」

健康ガイド MEDICA (https://medicasanyonews.jp/) でご覧いただけます。スマートフォンからはQRコードをご利用ください。

